

令和 7 年度事業計画

令和 7 年度は、昨年度キーワードとした「進」時代をさらに加速させるため、「さらなる進時代へ」と題し、高い集客力を維持しつつ、時代の変化を捉えた新たな挑戦をする姿を見せることでブランド力を高め、ジャンルを超えた多くの聴衆に仙台フィルの魅力を発信してまいりたいと思います。

また、若手音楽家の登竜門である第 9 回仙台国際音楽コンクールでは仙台フィルらしいホスピタリティを持って臨み、多くの才能ある受験者を支えてまいります。

1. 仙台フィルハーモニー管弦楽団を編成し、及び維持すること

(1) 指揮者・楽団員の体制等

令和 7 年度は、就任 3 年目となる常任指揮者の高関健と指揮者の太田弦との連携を深め、この両指揮者には引き続きジャンルを超えた作品の指揮活動も担っていただきます。

また、楽団員については、令和 6 年度に実施したオーディションにより、トロンボーン 2nd 奏者、チェロ tutti 奏者、ホルン 2 番 4 番奏者各 1 名を採用する予定のほか、ヴァイオリン奏者、トランペット奏者についてもオーディションを進めてまいります。

また 2025 年 8 月末で任期満了となる副指揮者についてもオーディションを開催してまいります。

2. 交響管弦楽等の演奏を行うこと

(1) 定期演奏会

令和 7 年度も引き続き、常任指揮者の高関健、指揮者の太田弦を中心に、年代や作曲家の出身国にとらわれないオールマイティなレパートリー展開を行いつつ、話題の指揮者やソリストを招聘してまいります。

また、宮城フィル時代の音楽総監督であった故芥川也寸志生誕 100 年を祝うプログラミングも展開します。

常任指揮者の高関健は、年間 3 回の定期演奏会に登壇します。まず第 382 回定期演奏会（令和 7 年 5 月）では、カバレフスキーの軽妙な組曲「道化師」に続き、現在最も人気のあるピアニストと言っても過言ではない角野隼斗を迎え、ジャズの要素が色濃いカプースチンのピアノ協奏曲第 2 番を、そしてショスタコーヴィチ最後の交響曲である第 15 番を披露します。

第 384 回定期演奏会（令和 7 年 9 月）では、芥川也寸志生誕 100 年を記念して、芥川の意欲作でありながら滅多に演奏されることのない「弦楽のための陰画」を蘇演します。近年豊かな音色と躍動感が人気であり、実力も認められているヴ

ァイオリニスト、金川真弓を迎えバルトークの傑作であるヴァイオリン協奏曲第 2 番とブラームスが長年かけて作曲した珠玉の名作である交響曲第 1 番を取り上げます。

第 389 回定期演奏会（令和 8 年 3 月）では、芥川也寸志の師で没後 20 年を数える伊福部昭作曲の佳作「室内オーケストラのための土俗的三連画」を 1 曲目に据え、2 曲目にはパラグアイ出身で 2021 年、世界最高峰のコンクールとして名高いジュネーブ国際音楽コンクールチェロ部門で見事に優勝したチェリスト、上野通明を迎え、現代ポーランドの作曲家ルトスワフスキのチェロ協奏曲を披露します。チェロ奏者でこの作品をレパートリーに持つ方はあまり存在せず、演奏機会も多くないことから、大変貴重な公演になるかと思われます。メインに据えるのはチャイコフスキーの交響曲第 4 番。飯守泰次郎常任指揮者時代に取り組んでいたチャイコフスキーの後期交響曲の中で演奏が実現できていなかったこの作品を高関健が引き継ぎ演奏します。

2025 年 3 月に「第 23 回齋藤秀雄メモリアル基金賞」を受賞し勢いに乗る指揮者の太田弦は、年度内 2 回定期演奏会に登壇します。

シーズンオープニングを飾る第 381 回定期演奏会（令和 7 年 4 月）では、ウィーンフィルの創設に大きく関わったニコライ作曲の歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」を皮切りに、2022 年秋にウィーン国立歌劇場（ウィーンフィルの母体）のコンサートマスターに若干 25 歳で就任した大器、ヤメン・サーディを迎え、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第 4 番を披露します。

後半 1 曲目は芥川の下でアシスタントを務めた武満徹が作曲した「弦楽のためのレクイエム」です。当時武満は結核に侵されており、同じ作曲家で親交のあった仙台市出身の川村文雄の死に向き合ったときに作曲された作品です。

そしてメインに取り上げるのは生誕 100 年を迎える宮城フィル元音楽総監督であり我々にとっては大きな功労者でもある作曲家、芥川也寸志の代表作である交響曲第 1 番となります。

第 388 回定期演奏会（令和 8 年 2 月）では、恩師の尾高忠明が 385 回定期演奏会に取り上げるシベリウス作曲の組曲「ペレアスとメリザンド」を弟子である太田弦がオマージュし、フォーレが組曲にまとめ上げた「ペレアスとメリザンド」を取り上げつつ、ドイツ・ミュンヘン出身で欧州各地の音楽祭に招かれ人気を博しているピアニストのモナ＝飛鳥が生誕 150 年を迎えたラヴェルの珠玉の名曲であるピアノ協奏曲を披露します。

後半には教会オルガニストそして教育者としても名を馳せたブルックナーがベートーヴェンの「第九」に調性を合わせ作曲した交響曲第 0 番を据えました。

客演指揮者としては、2025年までベルリンフィルの首席クラリネット奏者として在籍し、近年指揮者活動が評価され指揮者に転向したアンドレアス・オツェンザマーが第383回定期演奏会（令和7年7月）に登壇します。元クラリネット奏者だった経験を生かせるようR.シュトラウスの13管楽器のためのセレナードをプログラミングし、冒頭のメロディが印象的かつ有名なモーツァルトの交響曲第25番やR.シュトラウスの交響詩「ドン・ファン」並びに歌劇「ばらの騎士」組曲などドイツ音楽の風を吹かせます。

現在日本を代表する指揮者の尾高忠明は第385回定期演奏会（令和7年10月）に登壇。尾高のライフワークでもあるシベリウスの作品のみで構成された演目は名匠尾高の作品への解釈やアプローチへの自信が表れています。

祝祭的な響きのアンダンテ・フェスティーヴォはアンコールピースとして演奏されることが多いのですが、1曲目に据えた尾高の心意気を感じられます。

太田弦の取り上げるフォーレとはまた違った色を放つ組曲「ペレアスとメリザンド」はシベリウスの母国であるフィンランドの涼感を伴う好演目です。

そしてメインには、荒涼としたフィンランドの冬を思わせ、東北の冬の涼感と重なる印象的な響きを持つ交響曲第1番を演奏します。

オーケストラビルダーとしても著名な正統派指揮者のユベール・スダーンが第386回定期演奏会（令和7年11月）に登壇します。

モーツァルトが最初に書いた交響曲第1番を序曲的に据え、2曲目には同じくモーツァルトのオーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットと管弦楽のための協奏交響曲を仙台フィル管楽器首席陣であるオーボエの西沢澄博、クラリネットのダビット・ヤジンスキー、ファゴットの西口真央、ホルンゲスト首席の山岸博をソリストに迎え、仙台フィルの名手の演奏技術の高さを提示します。

メインにはスダーンが最も得意とする作曲家、シューベルトの交響曲第8番「ザ・グレート」を演奏します。

第387回定期演奏会（令和8年1月）には2007年以来19年ぶりに登場する沼尻竜典が登壇します。1990年ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝後世界の名だたる楽団に登壇し、1997年以降はオペラ指揮者としての活躍も目覚ましく、著名な歌劇場でも活躍しております。

生誕150年のラヴェルの組曲「マ・メール・ロワ」は牧歌的な叙情感を感じさせる名曲。オペラに精通する沼尻は2曲目にオペラ歌手として活躍目覚ましいソプラノの伊藤晴を抜擢し、ラヴェルの歌曲集「シェエラザード」で本領を発揮します。そしてメインにはドイツロマン派を代表する作曲家、シューマンの交響曲第2番を取り上げます。疾走感あふれる曲調に沼尻ならではの歌心が反映されることでしょう。

(2) 特別演奏会

平成 14 年（2002 年）より継続開催している 0 歳児からのコンサート「オーケストラと遊んじゃおう」は、4 月 6 日（日）に、昨年同様のスタイルで開催いたします。開演前の楽器体験コーナー「楽器博物館」では、弦楽器の体験コーナーと打楽器の体験コーナーを開催しつつ、好評である指揮者体験コーナーと、珍しい楽器を見学できる展示コーナーを継続し、0 歳児からでも楽しめる工夫をしながらお楽しみいただきます。ただし、感染症対策として管楽器の体験コーナーは引き続き開催を見送ります。

昨年より開催し好評を博している「名曲トラベル」は令和 7 年度も年間 4 回のシリーズで、平日午後 2 時開演、誰もが知っている大作曲家の名曲ばかりを集め、平日昼間にご来場可能なクラシック音楽ファンをさらに開拓していきます。

第 5 回は 4 月 9 日（水）に開催します。常任指揮者の高関健を迎え、音楽の父と称される J.S.バッハにスポットを当て、バロック音楽の人気作品である管弦楽組曲第 3 番、オーボエとヴァイオリンのための協奏曲（オーボエソロ・高橋鐘汰、ヴァイオリンソロ：神谷未穂）、ブランデンブルク協奏曲第 1 番と第 5 番をラインナップしました。

第 6 回は 9 月 3 日（水）に指揮者の太田弦が登壇し、ドヴォルザークの名曲である「チェコ組曲」、「スケルツォ・カプリチオーソ」、そして交響曲第 9 番「新世界より」を披露します。

第 7 回は 12 月 24 日（水）クリスマスを彩る名曲を作曲したドリーブとアンダーソンの心温まる小品の数々を元仙台フィル指揮者の角田鋼亮の指揮でお届けします。

第 8 回は令和 8 年 3 月 4 日（水）に、ピアノの詩人と称されるショパンとピアノの魔術師と称されるリストの名曲の数々を仙台フィル現副指揮者（令和 7 年 8 月末卒団予定）である神成大輝のタクト、第 8 回仙台国際音楽コンクール第 3 位入賞者の太田糸音のピアノでお楽しみいただきます。

同じく昨年より開催が始まりました「エンターテインメント定期」は 5 月 3 日（土・祝）にイズミティ 21 で第 4 回目を開催します。バンダイナムコグループとの連携は継続し、普段クラシックコンサートに来場されないような客層・世代の皆様にオーケストラ音楽の楽しさに触れていただく機会を創出します。

今回取り上げる作品は今年 1 月から新シリーズもテレビで放映されている「魔人創造伝ワタル&ワタル 2」を取り上げます。

なお、令和 7 年 8 月に第 5 回、令和 8 年 3 月に第 6 回と続きますが、取り上げる作品については現在最終調整を進めております。

例年開催してきた特別演奏会としては、7月26日（土）に、これまで2年間連続大好評で満席の公演となったサマーフェスティバルの第3弾に宮川彬良をお招きし、「仙台フィルハーモニーwith アキラさんスペシャルコンサート Vol.3」を継続開催します。昨年同様5歳以上入場可とし、多くの親子連れの皆様に夏休みの素敵な音楽体験の場としてご来場いただければと思います。

8月24日（日）開催の「マイタウンコンサート in 岩沼」は、指揮者に水戸博之を、ソリストには仙台出身で第3回仙台国際音楽コンクールの優勝者であるピアニストの津田裕也を迎えラフマニノフの名作であるピアノ協奏曲第2番とチャイコフスキーの交響曲第4番をお届けします。このコンサートには地元企業などの協賛により岩沼在住の小中高生を100名無料招待し、音楽を通じて未来を担う子供たちの成長を文化面で支援します。

11月15日（土）には、山田和樹×仙台フィル Vol.8「凱旋」と題し、バーミンガム市交響楽団の音楽監督、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督兼芸術監督などの要職を務め、令和7年6月にはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会に2011年の佐渡裕以来14年ぶりとなる日本人指揮者の登壇が話題となっている、元仙台フィルミュージック・パートナーの山田和樹を招聘し、ストラヴィンスキーの3大バレエ作品である、バレエ組曲「火の鳥」、バレエ組曲「ペトルーシュカ」、バレエ音楽「春の祭典」を一挙に演奏するという大迫力のプログラムを披露します。

12月20日（土）開催の年末恒例の「第九」特別演奏会は、常任指揮者の高関健が最も信頼し共演を重ねている声楽家4名のソリスト、中江早希（Sop）、相田麻純（MzSop）、宮里直樹（Ten）、大沼徹（Bar）を起用し歓喜の歌をお届けします。コロナ禍で人数が限られてしまった合唱団も徐々に本来の姿を取り戻しつつあり、昨年よりも多くの市民に参加していただきながら合唱団を編成する予定です。

1月11日（日）12日（月・祝）に開催する「名曲コレクション・ニューイヤーコンサート2026」は、近年人気・実力ともに高まっている指揮者、坂入健司郎を迎え、ソリストには和楽器とのコラボレーションとして箏の遠藤千晶を3年ぶりに招き、尺八の大家藤原道山との共演で吉松隆作曲の「FUGAKU 霊峰富士によせる七つの残景」を中心に置き、1曲目には新年を祝うファンファーレからはじまるスッペ作曲の喜歌劇「軽騎兵」序曲を、メインには誰もが親しんでいるドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」をお届けします。

1月31日（土）には仙台フィルが長年、隔年で取り組んでいる日本の現代音楽作品を東北・仙台の聴衆に紹介することをコンセプトとした「日本のオーケストラ作品」展を常任指揮者の高関健の指揮で開催します。新作演奏のみに拘ることなく、繰り返し演奏されるべき日本人の作品を、優れた演奏によって聴衆が享受できる機会の提供を狙いとするこの公演で、高関が選んだ作品は、柴田南雄・シンフォニア（1960年）、湯浅譲二：芭蕉の情景（1980年）、吉松隆・交響曲第

3 番（1998 年）という、広い時代的視点から個性の異なる三作。日本人作曲家の作品の魅力を聴衆に体験していただきます。

（3）依頼公演

令和 7 年 4 月 27 日（日）には、これまで幾度も共演を重ねてきた育英学園高等学校・秀光中学校管弦楽部と、ドヴォルザークの交響曲第 9 番「新世界より」を育英学園ゼルコバホールにて演奏します。飲酒運転撲滅を謳う育英学園の事業の一環でもあります。

5 月 17 日（土）は秋田県湯沢市の湯沢文化会館リニューアル公演として、指揮者に鈴木織衛、ソリストには秋田出身のピアニスト佐藤卓史を迎え、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第 1 番とドヴォルザークの交響曲第 9 番「新世界より」でリニューアルオープンに華を添えます。

5 月 21 日（水）には「アイリスオーヤマクラシックスペシャル 2025」がサントリホールにて予定されています。指揮者には仙台に縁があり仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門の指揮者でもある広上淳一を迎え、ソリストにはイギリスで活躍しているピアニストの小川典子を抜擢し、ベートーヴェン作曲のピアノ協奏曲第 5 番と、昨年 7 月の定期演奏会で広上の指揮により大きな好評価をいただいたマーラーの交響曲第 1 番を披露します。

5 月から始まる第 9 回仙台国際音楽コンクールでは、ヴァイオリン部門の指揮者に広上淳一を、ピアノ部門に常任指揮者の高関健を据え、5 月 24 日（土）から始まるヴァイオリン部門予選を皮切りに、両部門セミファイナル、ファイナル、ガラ・コンサートに出演し、ホストオーケストラとして若い受検者を支え世界に羽ばたくきっかけとなるようサポートしながら演奏します。

オーケストラ・キャラバン公演として 7 月 21 日（月・祝）には盛岡市民文化ホールマリオスでオーケストラと遊んじゃおう公演に準じた子供向け公演を、27 日（日）には一関文化会館で宮川彬良氏を指揮者に、サマーフェスティバルに準じた公演を開催します。

9 月 14 日（日）には山形交響楽団との合同演奏会を 2 年ぶりに復活させます。今回は山形交響楽団が主催者となりますが、好評の企画であるため隔年で主催を交互に担当し 26 年度は仙台での開催を予定しております。

10 月 3 日（金）～5 日（日）の 3 日間は毎年恒例の仙台クラシックフェスティバルに参加し、イベントを盛り上げます。

10 月 11 日（土）には登米市制 20 周年記念コンサートとして、地元の合唱団との共演を予定しております。

12 月 7 日（日）には毎年恒例の岩沼第九公演に出演します。

一昨年より再開された七十七スターライトシンフォニーも継続開催の見込みで 12 月中旬開催で調整しております。

12 月 14 日（日）には数年おきに定期的に公演を開催してくださっている岩

手県久慈市のアンバーホールにてオールベートヴェンプログラムを演奏予定です。市民合唱団も入り第九を取り上げる予定です。

12月27日(土)には今年度より依頼を受けるようになりましたゲーム音楽公演を積極的に取り上げている団体であるMusic エンジンにゲーム音楽の演奏を依頼され調整しています。

令和8年1月7日(水)には、年始恒例の藤崎ニューイヤーコンサートで仙台の初春を華やかに飾る予定です。

1月18日(日)には、隔年で開催しております、けせん「第九を歌う会」主催の第8回公演に招かれております。現在山林火災で大変な地域となっておりますが、苦難を乗り越える歓喜の歌になるよう演奏いたします。

2月15日(日)には、共演を重ねているバレエ団体であるハイパーウィンドの依頼でバレエ作品の傑作「ジゼル」の伴奏を務めます。

3月7日(土)には2011年、東日本大震災の後、音楽の力で被災者をサポートする仙台フィルに賛同したインターネットラジオOTTAVAが企画制作を担当し、TBSラジオ、tbc東北放送の主催により2012年から続く仙台フィル支援コンサートである第14回目(2020年はコロナ禍で中止)の「みんなでつくる復興コンサート2026」が開催される予定です。なおこのコンサートにはロジスティード株式会社が特別協賛しております。

このほかに七十七ふれあいコンサートについては、年度内に2公演開催していただける方向で開催時期を調整しております。

(4) 室内楽

「音楽の力による復興センター・東北」との連携による被災地域各地での室内楽公演を継続するとともに、地域のニーズに合わせて各種室内楽活動を引き続き行ってまいります。またサポート会員の皆様を中心に営業活動の一環としても質の高い室内楽の依頼を獲得してまいります。

(5) その他

被災地のオーケストラとして、「音楽の力による復興センター・東北」と連携し音楽による復興支援活動に引き続き務めてまいります。

また、令和3年度より取り組みを始めたボランティア活動「ほうもんコンサート」はコロナ禍が落ち着き再開の運びとなりました。令和7年2月26日(水)に東北大学病院中央通路にて3年ぶりに開催し多くの入院患者・医師・看護師の皆様音楽を届けてまいりました。令和7年度も継続して活動できるよう調整してまいります。

3. 青少年等の音楽鑑賞及び演奏等に関し指導を行い、その普及を図ること

(1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会

令和 6 年度は、日立システムズホール仙台コンサートホールで仙台市立小学校の 5 年生と中学校の 1 年生を対象としたこの鑑賞会を、コロナ禍で中断して以来、初めて従来通りの形式で開催しました。本公演は、引き続き令和 7 年度も開催する予定です。

(2) 舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）

令和 7 年度も文化庁の「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）」が採択となり、関東地域の小学校や中学校の訪問を予定しています。各地の子供たちにオーケストラの素晴らしさを届けます。

(3) その他依頼公演

例年開催されている「エンジョイ！クラシック」は 11 月に開催を予定しており、例年のように高校生の管弦楽部との共演を行うため、演奏指導にもあたる予定です。

4. その他目的達成のために必要な事業

(1) 演奏に必要な調査、研究

日本オーケストラ連盟加盟団体との各種情報交換に加え、文化庁、日本芸術文化振興基金へのヒアリングなどにより、当団の成長・発展と健全な運営に役立ててまいります。

(2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和 6 年度はコロナ禍前の合唱人数に近い市民合唱団を編成することができたものの、コロナ禍以前のような規模までは達しておりません。合唱団人数を回復させ、常盤木学園高等学校や宮城学院女子大学とも連携し、以前と同様の市民合唱団を編成できるよう努めます。

(3) 仙台ジュニアオーケストラ

令和 7 年 3 月末で、スーパーヴァイザー高関健が退任し 4 月からは太田弦が音楽監督に就任します。高関は引き続き指導は続けてまいります。今後は太田弦が中心となってジュニアオーケストラの育成に努めます。欠員の補充に力を入れつつ、子供たちが音楽を演奏することによって心身ともに健康であることを目標に活動します。引き続き仙台フィルの団員が講師となり、各楽器のパート練習にあたり、副指揮者在任中は副指揮者が弦楽器、管楽器、打楽器に分かれての分奏の指導にあたります。10 月の定期演奏会の指揮者には神成大輝が、3 月のスプリングコンサートには太田弦がそれぞれタクトを執ります。夏季合宿も含め充実した活動を展開できるよう取り組む予定です。

(4) その他

多くのリスナーからご好評をいただいているエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和7年度も番組内でリスナーに仙台フィルの演奏をじっくり聴いていただく形で継続されます。加えて tbc 東北放送においても「エンジョイ！クラシック」の継続が決定しております。また、これらの放送媒体のほか、仙台フィルのホームページ、X (旧 Twitter)、フェイスブック、インスタグラムなど SNS による情報拡散も引き続き積極的に行ってまいります。令和4年度からはじまった LINE 公式アカウントでの広報活動を継続しつつ、仙台フィル YouTube チャンネルの活用も続け、すべての定期演奏会について指揮者、ソリスト、または仙台フィル楽団員による事前プロモーション動画配信に継続して取り組みます。昨年度に引き続き、常任指揮者高関健、指揮者太田弦の定期演奏会の模様を中心にアーカイブで動画配信していくなど、更なる広報活動を展開してまいります。

(以上 敬称省略)